

陸前高田発

4年ぶりの田植え



津波で被災した陸前高田市小友町の水田で、種を直接水田にまく実証試験のため4年ぶりに田植えが行われました。広田半島の付け根に位置する小友町は東と西の両側から津波が押し寄せ、水田が甚大な被害を受けました。復旧事業は去年6月から行われ、およそ85ヘクタールで田植えができる状態となりました。復旧を機に設立された「農事組合法人サンファーム小友」の水田での田植えは県農業研究センターの作業省力化を図るための実証試験で、

鳥に食べられないよう鉄の粉でコーティングされた県オリジナル品種「どんぴしゃり」の種もみが田植え機などでまかれました。秋には苗から栽培されたものより10日ほど遅れて収穫できるということです。(5/14 ニュースエコー)



大船渡発

「復興支援カフェ」オープン

大船渡市を中心に復興支援の活動をするNPO法人が「若者たちが集える場カフェ」をオープンさせました。このカフェは、震災後に「大船渡には遊ぶ場所が少なく、人とゆっくり会える場所がほとんどない」という若い人たちの声を受けてオープンしたものです。店の名は「エクレシアコーヒー」。ギリシャ語で「人が集まる」という意味です。スタッフは、いずれも復興支援のため県外から大船渡に移り住んだNPO法人メンバーです。店内にはテーブル席とカウンター席のほか、ビリヤード台や床に座ってくつろげるスペースもあります。(5/16 ニュースエコー)



釜石発

館山神社例大祭

津波で大きな被害を受けた釜石市平田地区で、地元の館山神社の大祭が震災後初めて開かれました。館山神社大祭は3年に一度、開かれている地域の



の伝統行事ですが、3年前の2011年は神楽の道具が流されるなどして中止を余儀なくされました。今回は震災後初めての大祭で、住民の健康や町の復興を願って、山車や神輿が集落を練り歩きました。沿道には大勢の人が訪れ、お祭りを楽しんでいました。(5/18 ニュース)

盛岡発

「震災支援募金」贈呈



流通大手のイオングループが4000万円余りを岩手県に贈呈しました。この寄付金はイオングループが行った映画のチャリティー上映会などを通じ全国2300店舗に寄せられたもので、村上教行イオン専務執行役から達増知事に目録が手渡されました。県では被災した子どもたちの進学支援を目的とした「いわての学び希望基金」と「平泉文化遺産の保護と活用」に役立てることにしています。(5/21 ニュースエコー)

陸前高田発

さんりく元気ラジオ

(ワイドステーション内毎週水曜日放送)

今週は陸前高田災害FMの阿部裕美さんが、市内小友町にある茶畑から伝えてくれました。陸前高田は北限のお茶どころとして知られ気仙茶の栽培が行われています。この茶畑は海に近く津波を被りましたが、塩害に負けず新芽を出していて今年も収穫期を迎えています。「北限の茶を守る気仙茶の会」会長の菊池司さんによると、6月1日には茶摘み体験が行われるという事で、希望者は当日の朝9時までに米崎小学校の校庭に集合して欲しいとの事です。(5/21)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122